

〔作 物〕

小麦新品種「サキガケコムギ」について

吉田美夫・北原操一・鶴 政夫

桐山 毅・福岡寿夫・吉富研一

(九州農業試験場)

YOSHIDA, Y., KITAHARA, S., TSURU, M., KIRIYAMA, T., FUKUOKA, H. and YOSHITOMI, K.
A New Wheat Cultivar "SAKIGAKE-KOMUGI"

登録番号 小麦農林112号(系統名:西海121号)
来歴 昭和32年に、九州農業試験場において、ダンチコムギを母とし、中国81号を父として人工交配を行ない、F₃での世代促進栽培後、F₅派生系統として、派生系統育種法によって選抜および固定をはかってきたものである。昭和41年度(F₁₁)より西海121号の系統名で関係各県に配付し、地方適否の試験に供試した。昭和47年度における世代は、雑種第17代である。

本品種は、農林61号と比較して、次のような形態的および生態的特性をもっている(第1表参照)。

形態的特性 短かんで、そう(叢)性は直立型で、株はより閉じている。小穂着生密度はより疎で、小穂が横の方に張り出し、穂の幅は広い。粒はやや大きく、千粒重は重い。穂長、穂数、穂型(紡錘状)、稈色(褐色)、芒の長短・多少、かんの太さ、葉色、葉幅、粒形、粒色、粒の色沢、1ℓ重、硝子率、固定度などについては、農林61号と同様である。

生態的特性 出穂期で8日、成熟期で7日早生である。約11cm短かんなので、耐倒伏性については、農林61号よりもすぐれているが、農林61号は耐倒伏性がすぐれているとはいえないので、本品種も特に強い品種とはいえない。九州農試の成績によると、農林61号より出穂が1日早まることによる減収程度は、平均して3.3%である。このことを考慮すると、サキガケコムギが農林61号の94%の収量であることは、早生としては多収であるといえる。しかし、収量の年次の安定性については、やや劣るようである。品質は、外観的にも、内容的にも大して変わらないが製粉歩留りがやや劣るようである。耐病性については、白渋病にはより強く、赤かび病、赤さび病、黄さび病については同程度であり、縞い縮病、

黒さび病にはやや弱い。なお、まき性程度はI~IIであり、穂発芽性については同程度である。

栽培上の注意 本品種の栽培に関しては、農林61号に準ずる。ただし、縞い縮病にやや弱いので、発生地での栽培は避ける。

適地および奨励品種採用県 サキガケコムギは、九州北部の平たん地帯に特によく適応し得るものと考えられる。早生なので、春先の寒害との関係で中山間部への導入は避ける。現在、長崎県では奨励品種に、佐賀県では認定品種に採用されており、長崎県では2,500ha、佐賀県では4,500haの普及が見込まれている。

命名の由来 早生なので、小麦の中では真っ先に収穫できる意。

第1表 サキガケコムギと農林61号との比較

| 形 質 | サキガケコムギ | 農林61号 | 試 験 実 施 農 試 名 | |
|-----------------------|---------|---------|---------------|---|
| 出穂期(月・日) | 4.10 | 4.18 | 九 州 | |
| 成熟期(月・日) | 5.28 | 6.4 | | |
| かん長(cm) | 77 | 88 | | |
| 穂長(cm) | 9.5 | 9.6 | | |
| 穂数(本/m ²) | 372 | 377 | | |
| 1ℓ重(g) | 738 | 745 | | |
| 千粒重(g) | 33.7 | 32.2 | | |
| 1穂着粒数 | 27.3 | 30.0 | | |
| 収量(kg/a) | 標準栽培 | 32.3(9) | | 34.7(10) |
| | 多肥栽培 | 34.6(9) | | 36.0(10) |
| | 密播多肥栽培 | 37.2(9) | | 39.6(10) |
| | 平均 | 34.2(9) | | 36.4(10) |
| 穂発芽性 | 難 | 難 | | 岡山,九州 熊本,香川,中国,食研,九州 静岡,九州 鹿児島,高知,東海近畿,九州 長崎,九州 |
| 縞い縮病 | やや弱~中 | 中 | | |
| 黒さび病 | 中 | やや強 | | |
| 黄さび病 | やや強 | やや強 | | |
| 耐倒伏性 | 中~やや強 | 中 | | |
| 品 質 | 中 | 中 | | |
| 赤さび病 | やや強 | やや強 | | |
| 赤かび病 | やや強 | やや強 | | |
| 白 渋 病 | やや強 | 中 | | |